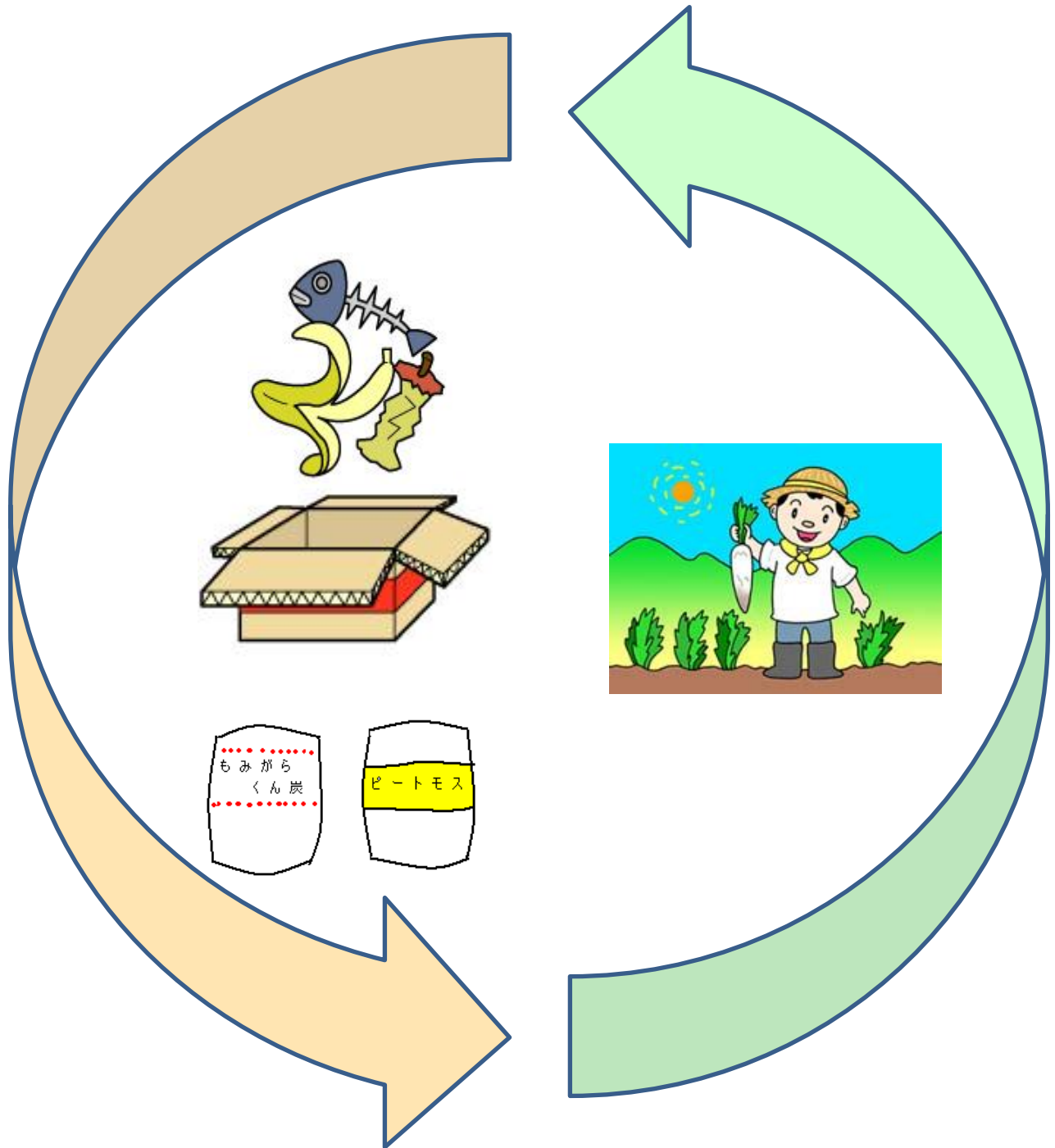


# はじめよう！ ダンボールコンポスト



# はじめよう！ダンボールコンポスト

家庭から出る一番身近なごみが生ごみです。家庭から排出されるごみの約4割と推定される生ごみを、燃やせるごみに出さずにリサイクルすることで大幅なごみ減量化につながります。そこで、家庭で簡単に生ごみを利用して堆肥を作るダンボールコンポストを始めませんか！！

## 1 実施期間

ダンボールコンポストを屋外に置く場合、6月から9月頃までが一応の目安です。  
(最低気温が15度以上の日が続いていることも一応の目安)

## 2 用意するもの

- 1 ダンボール2箱（りんご箱程度の大きさのものを基材入れ用と土台用として使います。すのこを土台にする場合は、ダンボールは1箱です。生ごみの分解時に水分が発生するため、土台用には通気性のよいものを使って下さい。）
- 2 ダンボールの底を補強するための新聞、ダンボール等
- 3 ガムテープ
- 4 基材（ピートモス15ℓ、もみがらくん炭10ℓ。ホームセンターなどで購入できます。）
- 5 使わなくなったTシャツ、バスタオル等（外側から虫が入らないように被せます。）
- 6 ゴム手袋（かき混ぜるときに使用します。）

その他

計量器（投入する生ごみの量を量ります）や温度計（100℃計、温度調整するときに使います）があれば便利です。

## 3 設置場所

若干臭いがするので、軒下、ベランダ等の雨が当たらない場所や、物置の中が良いようです。

場合によっては、虫が発生することもありますので、屋内はおすすめしません。

## 4 手順

### (1)準備段階

①ダンボールの底のすき間を、ガムテープでふさぎます。底抜け防止のために、側面から底にかけても2カ所程度ガムテープを貼ります。



②ダンボールの内側の底に、別のダンボール紙や厚紙・新聞1日分などを貼り付け、底を二重にし、底が濡れて抜けるのを防ぎます。



③・ダンボールにもみがらくん炭を先に入れ、平らにした後、ピートモスをいれます。

※入れる順番に注意！！

(割合は3：2、目安は、ピートモス15ℓ、もみがらくん炭10ℓ)

- ・合わせた量が、ダンボールの半分くらいまでとしてください。
- ・ピートモスは飛散しやすいのでそっとダンボールに入れてください。
- ・ピートモスは軽いカビ臭があります。

④・ピートモスを霧吹きやジョーロで湿らしながら全体をかき混ぜてください。

- ・全体に少し湿っている程度に仕上げます。

※水は入れすぎないように気を付けてください。

(500CC程度が目安です)。



⑤微生物が活動するようになるまで7日前後を要します。

最初は、分解されやすいキャベツの葉っぱやバナナの皮などを少量入れ、様子を見ます。それらが分解されるようになれば、他の生ごみも順調に分解されるようになります。

※白いカビが発生すれば、順調に分解が進んでいる証拠です。

⑥ダンボールの上から、使わなくなったTシャツ、バスタオル等をかぶせ、虫が入らないようにし、ダンボールの上から、若干、中に空気が流れるようにします。

⑦土台用のダンボール又はすのこ等に乗せ、ダンボールの底の通気がよくなるようにします。

設置場所は、雨に濡れない通気性のよいところにしてください。



下は土台用

## (2)生ごみ投入

- ・最初に入れたキャベツの葉っぱやバナナの皮などが分解されたのを確認してください。
- ・生ごみはきちんと水切りをして、1日概ね500g程度を目安として入れてください。
- ・下からしっかり混ぜ、空気を入れてよくかき混ぜてください。
- ・**生ごみを入れない日も1日1回はかき混ぜてください。**
- ・順調に生ごみが分解していれば温度が40℃位になるので、かき混ぜた時、暖かく感じます。



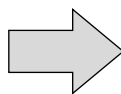
### 投入する生ごみの注意

- ・野菜くず等を中心にしたほうが、においがきつくなりません。
  - ・魚のあらや、ねぎを入れると臭いがきつくなるので、考えて投入には注意してください。
  - ・茶がらやコーヒーのカス、柑橘系の皮を入れると生臭さが緩和されます。
- 次のものは分解されにくいので、入れないほうがよいです。
- ・卵の殻（入れるのであれば、粉々に砕いて入れてください。）
  - ・肉類の骨 ・魚の背骨など太いもの
  - ・たまねぎやとうもろこしの皮 ・貝殻（分解されません。）

## 5 堆肥化

- ・1つのダンボールコンポストで、概ね3カ月間生ごみが分解されますが、条件により期間が異なりますので、生ごみの分解が遅くなったと思ったら、生ごみの投入をやめてください。  
※1日500g投入した場合、3カ月間でおよそ25kgの生ごみが堆肥化されます。  
(入れた生ごみの種類や量によって数値は異なります。)
- ・生ごみの投入をやめても、最後に投入した生ごみが分解されるまでは、1日1回かき混ぜてください。
- ・生ごみ投入をやめてから、概ね1ヶ月程度で堆肥の完成です。(パサパサした状態になっています。)
- ・出来上がったころは雪が降り始めているかもしれません。出来上がった堆肥は、そのままか、袋に入れ替えて保存できます。(ネズミにいたずらされることがあるので注意)  
すぐに庭の土に混ぜて、冬を越しても大丈夫です。

生ごみ投入前



4か月後

堆肥化後



## 6 使ってみよう!!

- ・花壇や畑の土に混ぜるだけ、もしくは上から撒くだけでもいいです。
- ・プランターに堆肥だけ入れて育てても大丈夫です。

### Q&A

**Q1 中のピートモス・もみがらくん炭が湿って団子になりましたがどうすればよいですか？**

**A1** 生ごみの投入を一時止め、もみがらくん炭を追加してかき混ぜ、基材の湿り気が少なくなるまで、日当たりの良い場所に置いてください。

**Q2 生ごみを1日500g以上投入したらどうなりますか？**

**A2** 微生物も一度に全ての生ごみを分解できるわけではありません。大量に入れた場合、微生物の活動が弱くなり、発酵しにくくなります。ダンボール内に分解されていない生ごみが残る状態になるので臭いがしたり、虫がわく場合があります。そのため、ピートモス15リットル、もみがらくん炭10リットルで行う場合は、1日約500gが最適となっております。

**Q3 温度は何度くらいになればいいのですか？**

**A3** ダンボールコンポストは微生物により、生ごみを分解するものですので、微生物が活動しやすい温度の状態を保つことが大切です。およそ、30℃～50℃位がよいでしょう。

**Q4 ダンボールが壊れた場合、どうすればいいですか？**

**A4** 水分によりダンボールがふやけて強度が落ちてしまうおそれがあります。そのような場合は慌てずに、新しいダンボールを用意し、中身を移し替えてください。土台として使用していたダンボールに入れるのもよいでしょう。

**Q5 作った堆肥は何に使っても問題ないですか？**

**A5** できた堆肥を使って被害があったという事例がないので問題ないでしょう。

**Q6 外に置いたらカラスや猫に荒らされませんか？**

**A6** カラスや猫よりもねずみに荒らされる可能性があります。このため、ねずみに荒らされないような工夫が必要になりますが、ねずみ返しなどを作るとよいでしょう。

## 体験者からのアドバイスなど

### 本当に臭いは大丈夫？

・ かき混ぜるときに臭いますが、それ以外はそれほど臭いませので安心して下さい。臭いが気になったらハーブを混ぜると良いです。虫の発生も防げて一石二鳥でしたよ。一回り大きいダンボールを用意してダンボールを二重にして利用することも有効でした。

### 失敗をしないためにやること

・ とにかく毎日かき混ぜることです。空気を入れてやるのが大切ですので、投入する生ごみがない日も下からしっかりと混ぜるようにすると良いです。

・ 生ごみはできるだけ小さめに刻むなどしてからコンポストに投入した方が早く分解されますよ。

### ダンボールコンポストをやって良かったと思うとき

・ ごみ集積所まで持っていくごみの量が軽くなり負担が減ります。特に水分を多く含むスイカなどをコンポストで処理できて便利でした。

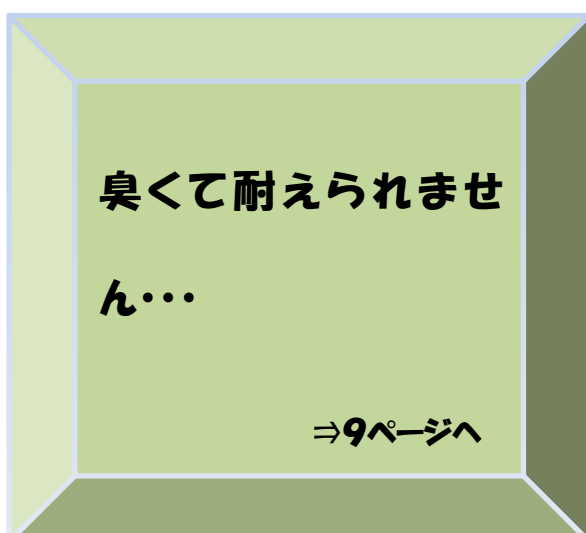
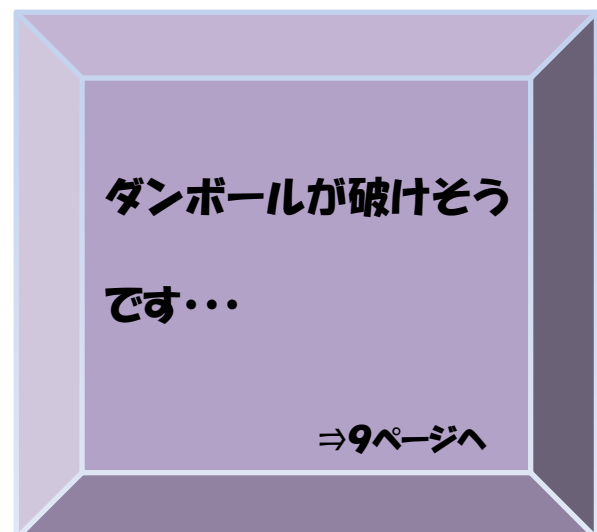
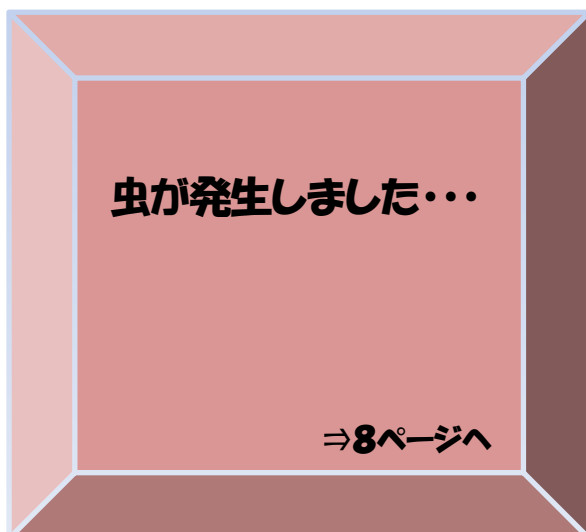
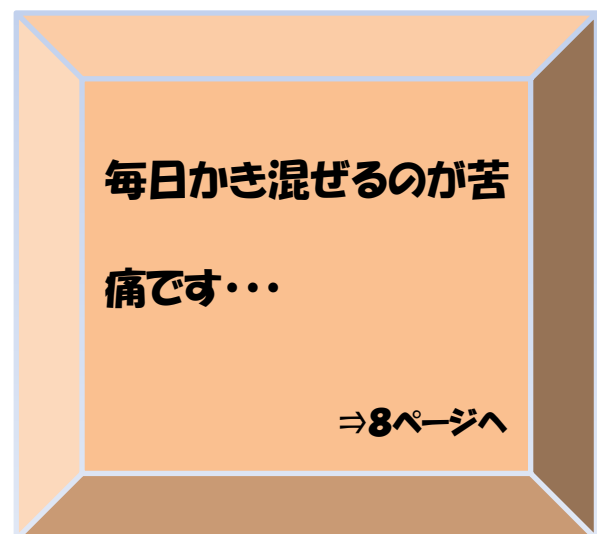
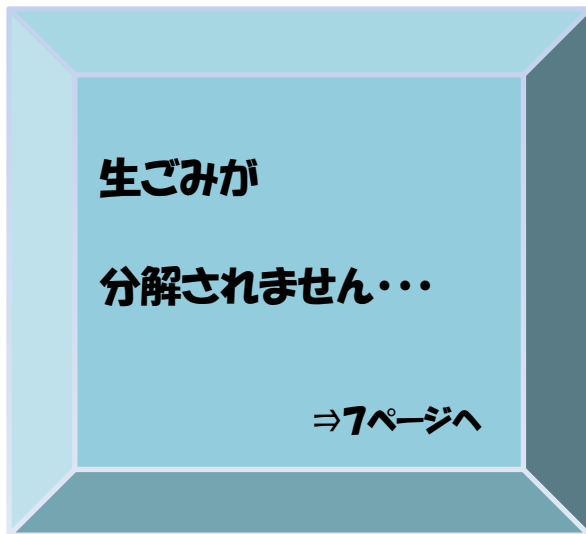
・ 出来上がった堆肥を自宅の家庭菜園に使う時にコンポストをやって良かったと感じました。ですから、堆肥ができるのを楽しみにしながらコンポストをやる楽しみながら出来ると思いますよ。

### その他

・ 子どもと一緒にダンボールコンポストに挑戦してみたいかですか。食育、環境教育になると思います。

・ ごみを資源の一つとして考えて市民一人ひとりが生ごみのリサイクルに取り組んでごみを減らしましょう。

## 上手く出来ないとき



## 生ごみが分解されません・・・

生ごみが分解されないのは、いくつかの原因が考えられます。以下のことについて確認してみてください。

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| ・コンポスト内の温度が低くありませんか？    | ⇒ 低いと感じたら①をチェック         |
| ・肉や魚の骨などの固いものを入れていませんか？ | ⇒ 入れているかたは②をチェック        |
| ・毎日きちんとかき混ぜていますか？       | ⇒ かき混ぜていないかたは③<br>をチェック |

① コンポスト内の温度が低ければ生ごみが分解されません。温度が低いと感じたら、まず、一旦生ごみを投入するのを控えもみがらくん炭を追加してかき混ぜましょう。

次に、使用済みの食用油（100cc 程度）や米ぬか（一握り）をコンポストに入れてかき混ぜてみましょう。微生物が活性化して温度が上がります。（50℃くらいまで温度が上がることがあります。）温かくなってきたら、生ごみの投入を再開してください。（分解されやすいキャベツの葉などから投入することをおすすめします。）

※米ぬかは自動精米機で自由に持っていける場所があります。

※食用油を入れても出来上がる堆肥への影響はありません。

② コンポストで分解されない生ごみがありますので以下の生ごみは取り除いてください。

・肉類の骨（フライドチキンの骨など）・魚類の骨（小魚の骨は分解しますが完全に分解するのに時間がかかります）・貝殻（しじみ貝、ホタテ貝、アサリなど）・たまねぎ、とうもろこしの皮

※意外かもしれませんがたまねぎの皮は分解されずに残ります。

③ 毎日かき混ぜることがダンボールコンポストにおいて最も重要です。かき混ぜなければ分解が進みませんので毎日かき混ぜるようにしてください。



## 毎をかき混ぜるのが苦痛です…

**毎をかき混ぜることがダンボールコンポストにおいて最も重要です。**とはいっても毎日欠かさずにかき混ぜるのは大変なことです。毎をかき混ぜるのが大変だと感じている人は、「熊手」や「スコップ」などを使ってみたらいかがですか。手をかき混ぜるよりは楽ですよ。

ただし、コンポスト内の温度は定期的に確認しましょう。

仕事、旅行、帰省などで長期にわたり家を空けることもあるかと思います。そんな時は、家を空ける2～3日前から生ごみの投入を止めて出来るだけ涼しいところに保管しましょう。

帰宅したら、すぐに生ごみは投入せずに食用油などを入れてコンポスト内の温度を上げてから生ごみを投入しましょう。



## 虫が発生しました…

虫が発生する原因として以下のことが考えられますので確認してみてください。

- ① 生ごみが分解されずにコンポスト内に残っている。
- ② コンポスト内から強く臭いがする。

① 生ごみが分解されないままコンポスト内に残っていると高い確率で虫が発生します。生ごみが分解されないのは微生物の活動が弱まっているためです。

6ページ「生ごみが分解されません」をご覧ください、コンポスト内の環境を整えましょう。

② 臭いがすると小バエなどが寄ってきます。ですから、臭いを抑えて虫を寄せ付けないようにします。**茶がら、コーヒーかす、柑橘類の皮**を入れることで臭いを抑える効果がありますので試してみてください。

ダンボールの上から、使わなくなったTシャツなどをかぶせ物理的に虫が入らないようにすることも大切です。

小バエ、ダニなどが大量に発生し、耐えられない場合は、堆肥作りを中止して基材を土に埋める又は燃やせるごみに捨ててください。(使用したダンボールも燃やせるごみへ)

## ダンボールが破けそうです…

### ダンボールの補強をしていますか？

生ごみは多くの水分を含んでいますので、ダンボールの内側を補強しなければすぐに強度が落ちてしまいます。補強をしていない人は、2ページをご覧ください。

### ダンボールが湿ってきた場合

生ごみの投入を一時止め、1日、日当たりの良い場所に置き、外側からダンボールを乾燥させてください。

乾燥しない位湿っている際は、新しいダンボールに入れ替えてください。  
(使用したダンボールは燃やせるごみに出してください。)

## 臭くて耐えられません…

臭くて耐えられない場合は、以下のことを実践してみてください。

### ① 投入する生ごみを野菜くず中心にする。

魚の内臓、生肉など投入する生ごみによっては臭いがきつくなる場合があるため、臭いに耐えられなくなったら、野菜くずを中心に投入しましょう。

### ② 茶がら、コーヒーかす、柑橘類の皮を入れる。

臭いを抑える効果がありますので試してみてください。

### ③ 風通しの良い場所に置く。

風通しの良い場所において空気を循環させて臭いを外に出してください。

【問い合わせ】

弘前市環境管理課

資源循環係

☎ 35-1130